【県指定・史跡】

西南戦争（せいなんせんそう）　高熊山古戦場（たかくまやまこせんじょう）（令和４年４月 26 日指定）

堡塁跡

弾痕が残る岩盤

○　**所在地**　　伊佐市大口木ノ氏 1287 番地１のうち一部

○　**所有者**　　伊佐市

○　**特　徴**

高熊山古戦場は，大口盆地の北東にある高熊山（標高 412m）の山頂にあります。現在，一帯は伊佐市指定史跡として保存され，公園として市民に親しまれています。

明治 10（1877）年２月に勃発（ぼっぱつ）した，国内最大・最後の内戦とされる西南戦争において，５月から６月にかけて行われた人吉・大口方面の戦いの主戦場のひとつです。

文献記録では，政府軍が残した『別働第二旅団戦記巻之四』，『戦袍日記』や『戦闘報告表』等に当時の戦闘状況が詳細に記録されています。これらによると，高熊山古戦場では，６月 18 日から戦端（せんたん）が開かれ，同 20 日に政府軍の勝利で終了しています。

令和元年度に実施した史跡内に残る９基の堡塁（ほうるい）（塹壕（ざんごう））跡の配置や構造の解明等を目的とした発掘調査の結果，堡塁跡の構造が２種類あることなどを把握できたほか，銃弾や薬莢（やっきょう）も発見されました。また，文献記録に残る戦闘状況と発掘調査の成果が，おおよそ一致することも確認されました。

高熊山古戦場は，西南戦争の状況が明らかになった遺跡として貴重です。